

2024 年度 一般社団法人 日本臨床検査専門医会 定時社員総会議事録

開催日時：2024 年 6 月 29 日（土）18 時 30 分～19 時 00 分
開催会場：紀南看護専門学校 4 階 講堂

<総会の成立>

司会者村上庶務担当常任理事より、現地参加者 42 名および委任状 304 通をもって、定款第 3 章 17 条の定める定足数を満たしたため本会の成立が報告され開会が宣言された。
定款同 15 条により、議長はゞ谷理事長が務めることとなった。

審議に先立ち、本会有功会員高柳尹立先生（2024 年 3 月）の逝去を悼み黙祷がなされた。

<審議事項>

第一号議案 議事録署名人の選任

定款第 18 条 2 項による議事録署名人の選任につき、議長が 2 名を提案し議場に諮ったところ満場異議なく、次の通り選任された。

議事録署名人 木村 聡 先生
同 橋口 照人先生

<報告事項>

1.2023 年度事業報告（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日分）

村上庶務担当常任理事より資料 1 に基づき報告があった。

刊行物の発行、計 7 回の理事会、2 回の社員総会等会議開催、その他委員会活動に触れた。昨年度は役員交代の年であったため、交代後は新体制で行った。また、第 2 回年次大会、生涯教育講演会（現地+オンデマンド配信）、教育セミナー・臨床検査振興セミナー（共にオンデマンド配信）、臨時社員総会講演会・共催シンポジウム（臨床検査医学会学術集会時）を計画通り行った。

その他、4 年ぶりに行われた「こども霞が関見学デー」、「臨床検査の日」広報活動、「臨床検査ハンズオンセミナー」などを共催、JACLaS EXPO 共同出展、令和 6 年度診療報酬改定に関する活動を関連学会と協力して行った。

<審議事項>

第二号議案 2023 年度決算の承認（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日分）

増田会計担当常任理事より、資料 2 に基づき、まず正味財産計算書における説明があった。

2023 年度は教育セミナー受講者が当初の見込みより多く、それに伴い新入会が多かったため、会費収入が増加した。また、賛助会員が 1 社増えたため賛助会費も増えている。一方、LabCP の発行がなかったため広告収入は計上が無い。生涯教育講演会参加費については、年次大会参加費徴収の際、内訳の明示がなかったため、年次大会収入に含んで計上している。次に、庶務経費について、事務局交代に伴う引継ぎ作業による人件費および、事務局ノートパソコン故障による買い替えのため、予算より決算額が多くなっている。いずれも来年度以降は減少が見込まれている。事業経費について、前述通り LabCP 発行が無かった関係で、印刷費は予算を下回っている。年次大会費はオンデマンド配信費用等が予算より少なかったため、予算を下回った。会議費について、コロナ禍以降、対面開催が増えたことにより、前年度に比べ費用は増えているが、予算を下回っている。他の費目については、ほぼ予算通りであった。結果、当期正味財産増減額は 1,274,406 円の黒字となった。

貸借対照表については、説明を割愛するので資料で確認して欲しいと述べた。

続いて、東條監事より添付の監査報告書に基づき、令和6年5月8日に日本臨床検査専門医会事務局において、菊池監事とともに、村上庶務担当常任理事、増田会計担当常任理事同席のもと事業報告および決算報告について、定款38条通りに監査を行った旨の報告があった。事業報告については、特に問題がないことを確認した。決算報告については、帳簿、証票類、通帳等を突き合せたうえで確認をしたが、こちらも適正に行われていることを確認した。

ここで、議場の登名誉会員より、生涯教育講演会の費目立てについて、同講演会は臨床検査医学会学術集会時に行っていた時代に、専門医会が別途費用を集めていたため費目立てされていたが、現在は、独立した専門医会の年次大会中に行っているため、別途費目を立てなくてもよいのではないかと、質問があった。増田会計担当常任理事は、貴重な意見だとして謝辞を述べ、生涯教育講演会については、年次大会運営側ではなく、教育研修委員会が企画しているため、収支が別立てだと認識してきた。今後理事会で検討したいと述べた。また、鯉淵教育研修委員会委員長は、生涯教育講演会は基本的に共通講習認定講習会とするため、開催地で非会員の参加に対応するため参加費を別にしてきた経緯があると理解していると補足意見を述べた。議長は、各々の意見を踏まえ、今後理事会で検討していきたいと述べた。

この後、議長が決算の承認について議場に諮ったところ、満場異議なく承認された。

第三号議案 有功会員の承認

5月の理事会において、規定に沿って下記1名が有功会員として推薦された旨の説明があり、議場に承認について諮ったところ、満場異議なく承認された。

有功会員 大西 明弘先生

〈報告事項〉

1.各種委員会報告（2023年度、前回社員総会以降の活動報告）

1) 情報・出版委員会(福地委員長・代 村上庶務担当常任理事)

JACLaP NEWSに、会員の声や事務局からの連絡事項を掲載してきた。とりわけ、臨床検査の発展に貢献してきた先生方による「臨床検査医学への提言」は第9回まで進んでおり、大変楽しい記事となっている。また次世代の臨床検査医の記事も載せている。JACLaP WIREは最近279号を発行した。新規収載項目を主な内容としている。日衛協ラボ内の検査医の話として、今年度は「見逃せない検査異常」をテーマとし、一般の方々にもわかりやすいような内容の記事を連載している。

2) 教育研修委員会（鯉淵委員長）

2024年5月に教育セミナーをオンデマンド開催した。それに付随し、今年度は新しい試みとして、「セミナー受講者と合格者のつどい」をZOOM形式で行った。また、年次大会時の生涯教育講演を2講演担当した。

議長は、報告事項2の「第1回医学生・研修医のための臨床検査セミナー」について、この場で続けて報告するよう促した。

鯉淵委員長は、資料を示し、同セミナーについて参加者募集中であり、周囲に対象者がいる場合は声掛けをして欲しいと、議場に依頼した。

3) 資格審査・規定改定委員会（田部委員長）

今年度は教育セミナー受講者を中心に19名の入会審査を行った。また、今回審議事項となった有功会員の推薦について委員会として承認した。

4) 広報ネットワーク委員会（尾崎委員長）

今年も例年通り、こども霞が関見学デーに参加することになった。地域医療参加の単位になるため、東京近郊の専攻医の方に協力を仰ぎたい。レジデントノートについては後藤委員を中心に掲載が進んでいる。また、本会ホームページがアンコンシャスバイアスにかかってくる可能性があるため、今後委員会で検討を重ねていく。

5) 渉外委員会（幸村委員長）

今年7月26日開催の臨床検査振興セミナーについて概要を説明した。5年ぶりの対面開催となり、賛助会社の方々との交流が主な目的であるため、時間があればぜひ参加して欲しいと議場に依頼した。主な内容は令和6年度診療報酬改定と新型コロナウイルス感染症である。また、今年も全国検査と健康展の共催を予定しているため、参加協力をお願いしたいと話した。

6) 保険点数・データシステム委員会（松下委員長）

令和6年度診療報酬改定について、本会内でのアンケートを行い、臨床検査医学会と合同し、臨床検査振興協議会の審議を経て要望書を提出した。大幅な増点を得た要望など、増点を認められた提案が多々あった。削除項目についても認められた。データシステムに関しては、湯地委員の尽力により、医療情報学会との合同等で必要な議論が進んでいる。

3.その他

特になし

〈閉会〉

すべての審議、および報告が滞りなく終了したため、閉会が告げられた。

議事録署名人

2024年12月28日

べ谷 直人 印

2024年9月25日

橋口 照人 印

2024年9月28日

木村 聡 印